

開放的な空間の中でスポーツと学びを誘うプロムナード  
「スポーツと学びのルート」

ルート方向性

- 対岸の町並みや、背後の田園風景を楽しみながら散策できるルート  
(心地よい風を感じながらウォーキングやジョギング、散策、サイクリングを楽しむ)
- 石巻専修大学や総合運動公園との連携によるネットワークの拡大と利活用の推進
- サイクリングやジョギング等の運動の利用を考慮した工夫(距離標や案内板)
- 一部、水辺利用や水面利用を考慮した工夫(釣りやボート等)

水辺の現況

- 石巻専修大学や石巻商業高校、総合運動公園が隣接。
- 石巻専修大学では漕艇部やカヌー一部の利用のため浮き桟橋を設置、サークル活動が行われており、大学構内には約650本もの桜が植えられており、隠れた桜の名所になっている。
- 近年、カヌー団体による旧北上川のカヌー利用(カヌー教室・カヌートレッキング等)が行われている。
- 周辺住民の日常の散策路として利用されている。



川沿いにある石巻専修大学の漕艇



旧北上川の浮き桟橋とカヌー利用



利活用方策

- 総合運動公園を出発点とし、開放的な空間の中で風を切って走るマラソン大会や、親子ウォークラリー等のイベントを検討



マラソン大会のイメージ



ウォークラリーのイメージ

- 石巻専修大学と連携しカヌーや大学構内の桜並木の利活用方策を検討。
- カヌー発着所を活用した、カヌー教室や水辺・川と親しむイベント等の開催を検討。



カヌー教室イメージ

- 水辺の緑を創出・管理するため、町内会等により水辺愛護会(仮称)を結成し、河川清掃や植栽管理を推進。



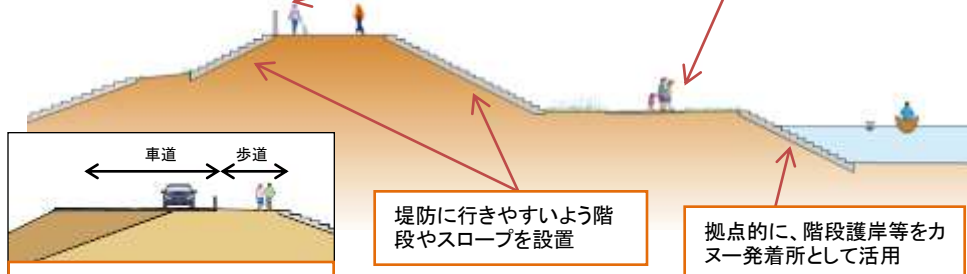
河川清掃イメージ

- 子どもたちが水辺を散策しながら旧北上川や水辺の環境などを学べるよう検討(散策イベントや看板など)
- 広域的なネットワークの移動を容易にするため、堤防をサイクリングロードとしても活用する(レンタサイクルの発着所を整備)
- 対岸のルートや拠点とのつながりを確保するため、イベント等において対岸との渡しの再現について検討。

ルートイメージ

距離標を設置して現在位置がわかり、また歩く目安となるよう配慮

広い河川敷の中を散策できるフットパス等で活用



堤防に行きやすいよう階段やスロープを設置

拠点的に、階段護岸等をカヌー発着所として活用

兼用道の部分は、堤防の天端を拡幅し、歩車道分離・ガードレール設置で安全性を確保

※堤防等はイメージであり今後の検討によって変更があり得ます。

向  
実  
け  
現  
に

- 国で整備する河川堤防と調整を図り、プロムナード計画に基づく施設の配置計画や利活用について、具体化を検討していく。
- 利用者・管理者等の中で施設や空間の利用ルールや管理区分等を調整していく。

# 水辺のレジャーも楽しめる防災拠点 「旧北上川水辺広場」

拠点  
方向性

- 市街地を流れる旧北上川沿いとして、多くの人が集い、水辺と親しめるポイントとして拠点を形成。また洪水時は防災拠点としての機能も併せる。
- 拠点では、水辺を望みながら子どもたちが思いっきり走り回れる原っぱ、多様な年齢層の様々な活動の場、プロムナードの休憩スポットとして機能。

## 水辺の現況

- 津波による被害は比較的小さく、川沿いには住宅等が立地し、日常の散歩等として利用されている。
- 堤防の住宅側は、約6haもの広大な用地があり、現在は仮設住宅として利用されている。
- 堤防の河川側は、階段が整備されており、震災前には川開き祭りの花火大会会場として多くの人が集まっていた。



堤防の川側。階段が整備され、河川をゆっくり見ることができる



水際は広場やベンチが整備され、堤防天端は日常の散歩路として利用されている



拠点箇所は現在仮設住宅が立地している

## 拠点イメージ

- 現在、仮設住宅として利用されていることから、今後のまちづくりとの整合を図りながら検討していく。
- 市街地を流れる旧北上川沿いには、多くの人が集い、水辺と親しめるポイントが少ないため、多目的グラウンド(芝生広場)として子供たちが遊び回れるような空間とする。
- 周囲よりも地盤が高くなることから、洪水等の緊急時においては、水害対応の指揮や地域住民の避難場所等として活用可能。また、当該地区は築山や建物等を設置することで、津波来襲時の一次避難所としての活用も可能。
- 石巻大橋から石井間門までの散歩路(堤防上)では木陰が無いため、拠点に植樹して木陰を形成(樹木は水害時に水防対策として活用できる樹木を選定=水防資材)
- 人が集まるための駐車場も併設。



### ▼ 大規模災害発生時と平常時における防災拠点の機能

#### 洪水等の緊急時には

- 水防情報の受信基地
- 土砂、ブロック等備蓄した資材による緊急復旧の拠点
- 地域住民の緊急避難場所
- 水防司令室
- 水防団待機所
- ヘリポートによる緊急輸送

#### 平常時には

- スポーツ、レクリエーションの場
- 河川等に関する情報発信の場
- 地域の方々とのコミュニティ施設
- 地域の野外活動の場
- 各種イベントの開催



## 利活用方策

- 多目的グラウンド(芝生広場)では、スケートボードやゲートボール場として活用するなど多様な年齢層に水辺での活動に利用。



スケートボードのパーティ



ゲートボール

多目的広場の利活用イメージ

- オープンスペースを利用して、各種イベント等に活用。

## 実現に向けて

- 国の防災ステーション等整備事業と調整し、プロムナード計画に基づく施設設置や利活用について具体化を検討。
- 拠点計画地は、現在仮設住宅として活用されていることから、将来的なまちづくりとの調整を図りつつ検討していく。
- 利用者・管理者等の間で施設や空間の利用ルール、管理区分等を調整していく。



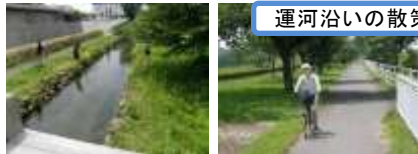
# 8. 北北上運河のルート、拠点、ポイント

北北上運河の位置



## 8-1 北北上運河のポイント

- 運河では、高校生によるボートやカヌーの練習、そしてNPOによる子供を対象としたボート体験が行われており、水面利用が盛んである。
- 大街道より南の運河では、津波により水辺の松が被災、多くの松が枯れている。
- 震災により堤防・護岸が被災しており、災害復旧が予定されている。
- 震災前には市民団体によるライトアップなどの活動により地域活性化に取り組んでいた。
- 運河交流館や石井閘門周辺は、中里川の憩いの広場があり、桜やツツジ等の花や、歴史的な施設である石井閘門が眺められる空間となっている。運河交流館は石井閘門の歴史なども学ぶことができるが現在休館中であり、石井閘門は老朽化や被災のため改修工事が予定されている。今後の利活用等は改めて検討の必要がある。



運河沿いの散策路は多くの人利用



運河ではボートやカヌーが盛ん



北北上運河の景観  
(震災により護岸や松が部分的に被災)



漕艇用の浮き棧橋



運河交流館(休館中)



石井閘門



中里川憩い広場



運河沿いの散策路



斜路でのボート利用



中里川憩い広場の滝(震災前)

運河の水辺と緑を楽しむ  
「運河ルート」

- 運河の水辺と緑を楽しみながら、ボート等の水面利用や散歩、サイクリングができるルート
- 既に散歩路が整備済みであり、これを活用することを基本とする。
- 運河沿いに並ぶ松並木が良い景観であるが、津波により松が枯れていることから、地域と一体となって従前の景観の再生を検討し、ライトアップ等の取り組みを推進する。

水辺の現況

- 運河沿いに整備された散歩路は、散歩やウォーキング、通勤通学、サイクリング、生活道路などとして活用されている(新たな整備は行わず、利活用を推進)。
- 運河では、カヌーやボートの練習そしてNPOによるカヌー体験が積極的に行われており、水上利用が最も盛んなルートとなっている。
- 運河沿いには松並木が続いており、震災前には市民団体が松並木をライトアップし、運河のPR活動を進めていたが、津波により河岸の松の多くが枯れており、従前の景観を取り戻す取り組みが必要となっている。



運河沿いに散歩路が整備され、運河を眺めながらの散歩や、サイクリング、運動などで利活用が図られている



運河と松並木のコントラストがすばらしい景観を形成。

震災後も学生が運河を利用してカヌーの練習を行っている。



震災後、運河沿いの松の多くが枯れている



市民団体による北上運河の松並木へのライトアップ(石巻日日新聞提供)

利活用方策

- 水辺利用や運河沿いの散歩が進むよう、北上川・石巻湊公開講座等により運河を題材とした講座や現地学習などを企画。
- 運河沿いの散歩路や河川・水路の除草などの維持管理方策について検討を進める。



北上川・石巻湊公開講座(屋内及び屋外での講座風景)

(快適な運河沿いの散歩環境を目指して)

- 中里川の延長にある釜幹線水路については、「水がよどみ水質が悪く異臭がたちこめる」、「マコモが繁茂してゴミ不法投棄の要因」などの意見が多く示されたところであり、問題解決そして快適な散歩環境のためにも定期的な地域と行政との話し合いを継続して少しずつでも解決の方向へ向けていく。
- 津波により枯れた松並木の再生を、地域や関係機関と一体となって取り組む。



夏にはマコモの繁茂や異臭のする釜幹線水路

向実  
け現  
てに

- 県で行う堤防の災害復旧と調整し、ルートの位置づけの継続や、利活用を検討する。
- 利用者・管理者等の間で施設や空間の利用ルールや新たな利活用方策を調整していく。



# 川を学びと水とふれあう 「水辺の交流広場」

拠点方向性

- 運河交流館（交流と学び）、石井閘門水辺広場（活動）、中里川憩い広場（憩い）の3施設が、一つの施設とすることで拠点性を向上（⇒一体化のための整備）。
- 施設（拠点）の利活用を推進するため、使い勝手が良くなるような整備や取り組みを推進。

## 拠点の現況

施設のテーマ

施設管理

国 県 市

- 石井閘門は、老朽化や震災による被災を踏まえて施設補修のための調査を実施中。



石積背面の沈下



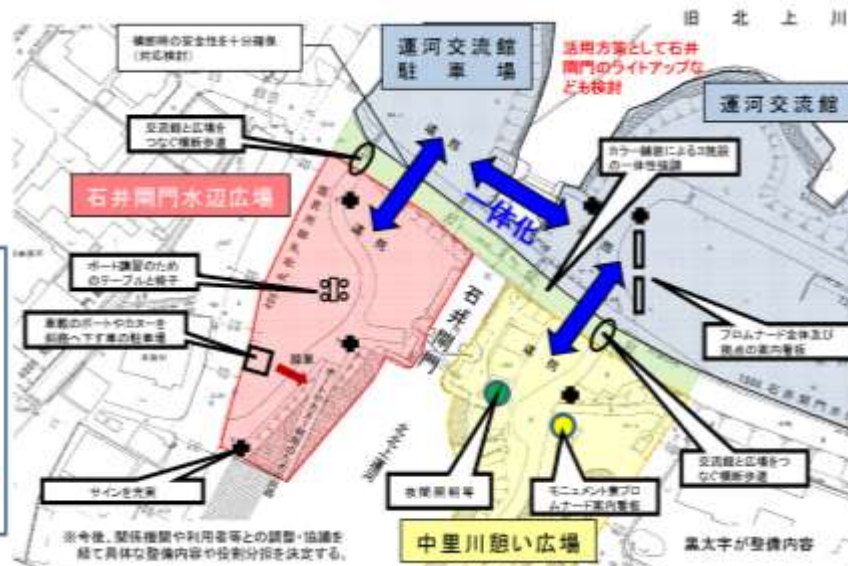
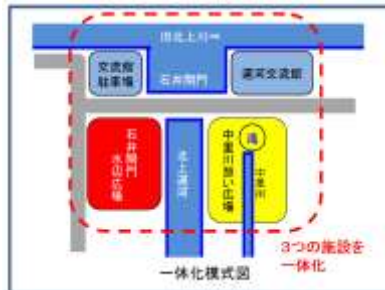
開閉機の破損（旧北上川側）

「北上川下流河川事務所HP」

- 実現に向けて
- 休館している運河交流館（国管理）の再開や、国で行う石井閘門の補修等も含め、利活用の基盤づくりを行う。
  - 施設の利活用の推進に向けて、NPOや市民団体等と調整を図り、3施設を一体的に管理するルールや体制を検討していく（新たな管理団体の設立に向けて検討）。

## 拠点イメージ

- 3つの施設をつなぐ横断歩道や案内看板、サイン等の整備を行うことで、3施設が一体的となるよう工夫。また施設の利用促進を図るための駐車場（一次利用）やテーブル・椅子を整備。



## 利活用方策

- 旧北上川や北北上運河を学び、運河でカヌー体験をするなど子供たちが川を知る総合施設として活用。
- 拠点「水辺の交流広場」の利活用を推進するため、新たな管理体制等によるオープンカフェ等の利用や水辺学習会などの集客に関する取り組みを推進。
- 拠点の利活用推進に併せて、例えば石井閘門を見学した観光客のバスが拠点の近傍に止められるように検討。
- 運河交流館駐車場にて駐車が不足する場合は、周辺空地を検討。



水辺のオープンカフェのイメージ



NPOひたかみ水の里によるカヌー体験（石井閘門前の運河）



中里川で水生昆虫採りに夢中の子供たち

拠点



拠点テーマ

## 運河と緑の憩いの空間 「水と緑と子供たちの広場」

拠点方向性

- 運河と松や桜等の緑に囲まれながら、人々が憩う空間
- 既に公園が整備されており、散歩や部活動でのランニング、サイクリングなどでの利活用が進んでいる(新たな整備は行わない)。
- プロムナードとしてもっと使い勝手を良くする工夫を今後検討

### 拠点の現況

- 震災・津波により運河の堤防や護岸の一部が被災しているが、堤防天端の散策路等は被害を受けず、震災前同様に地域の人に利用されている。
- 運河沿いの散策路と一緒に既に公園が整備されており、散策路を通る人たちが休憩や憩いの場所として利活用が図られている(既に拠点となっている)。
- 沿道には桜が植樹されており、春には花見の人で散策する人が多い。
- 公園には鴨が休み、ほのぼのとした雰囲気に入れ、地域に親しまれる公園となっている。



散策路の沿道には桜が植樹され、公園のベンチで休みながら桜が眺められる



運河と桜が並ぶ景観もすばらしい



公園にある運河整備事業の看板



公園では鴨が休憩しており良い雰囲気を醸し出している



ランニングしている学生たち



自転車での散策



木陰で休んでいる人も

### 利活用方策

- 運河沿いの散策路や河川・水路の除草などの維持管理方策について検討を進める。
- 拠点の利活用が進むようにイベント開催などを今後進める。



ウォーキングなどのプロムナードを活かしたイベントイメージ

(快適な運河沿いの散策環境を目指して)

- 中里川の延長にある釜幹線水路については、「水がよどみ水質が悪く異臭がたちこめる」、「マコモが繁茂してゴミ不法投棄の要因」などの意見が多く示されたところであり、問題解決そして快適な散策環境のためにも定期的な地域と行政との話し合いを継続して少しずつでも解決の方向へ向けていく。



夏にはマコモの繁茂や異臭のする釜幹線水路

向実  
け現  
てに

- 利用者、管理者の間で施設や空間、スペースの利用ルール・管理区分等を調整していく。



# 10. サイン計画について

「いしのまき水と緑のプロムナード計画見直し(案)」では、プロムナードの利便性、快適性の向上、更には市民に愛される石巻のまちづくり、集いとにぎわいを呼ぶための利活用方策の一環としてサイン計画を立案する。

## サイン計画の目的

### ①目的地までの円滑な誘導

地元住民や観光客の人たちが、拠点等への目的地まで円滑に移動できるように誘導する。

### ②石巻について学ぶ

地元住民や観光客の人たちに、サインを通じて石巻の歴史、文化、産業等について学んでもらい、市民に愛される石巻のまちづくりを目指す。

### ③楽しさや賑わいを演出し、 来訪者の増大と石巻の地域活性化を図る

利便性を向上させることだけでなく、サインのデザインにイラストやアニメを活用する等、楽しさや賑わいを演出し、来訪者の増大をめざし石巻の地域活性化を図る。

#### 【サインの留意点】

#### 1. 誰もが見やすく、わかりやすいサインとする。

子どもからお年寄りまで誰もが見やすく(視認性が高く)、分かりやすいサインとする。また、誘導や避難に用いるサインはユニバーサルの観点から日本語、英語及び絵文字等による表示を基本とし、必要に応じて音声案内等を活用する。

#### 2. 周辺景観との調和、融合を図るとともに、石巻らしさを演出する。

周辺の町並みや自然環境等の景観との調和を図り、情報を的確に伝えるとともに、歴史や文化といった石巻らしさを演出する素材、デザインとする。

#### 3. サインの分類に応じて、サインのデザインを統一させる。

サインの分類上同じものは、統一したデザインとし、複数のサインが連携することで情報の伝達効果を高める。

#### 4. 市民のみんなで考える。

市民参加で「石巻のことをより分かりやすく解説する」サイン作成や設置を検討する。なお、将来に向けて、更新や充実を図っていくよう、継続していく。

## サインの分類

サインは、案内、誘導、歴史や文化等の説明、利活用のサインと避難や津波啓発の防災サインを対象とする。

	設置の目的	サインの事例
利活用サイン	①案内サイン <ul style="list-style-type: none"> <li>全体案内(ルート・拠点の説明、トイレ、休憩施設等の説明)</li> <li>拠点内の主要施設を案内</li> <li>現在地の表示</li> </ul>	
	②誘導サイン <ul style="list-style-type: none"> <li>観光客をまちの中心部からプロムナードのルートや拠点まで誘導</li> <li>注目スポット等へ誘導</li> </ul>	
	③説明サイン <ul style="list-style-type: none"> <li>歴史的な地域資源を解説する</li> <li>プロムナードのルートや拠点周辺の歴史、文化、産業等、更に史跡等の地域資源を解説する</li> </ul>	
	④その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>海や川の景観を楽しむ場所を示す</li> <li>河口からの現在の位置までの距離を示す</li> <li>お勧めの散策コースや目的地までの所要時間等を知らせる</li> </ul>	
防災サイン	⑤避難サイン <ul style="list-style-type: none"> <li>津波避難場所や避難経路などを表示</li> </ul>	
	⑥津波啓発サイン <ul style="list-style-type: none"> <li>津波の知識を学習し、危険性を表示</li> <li>過去に来襲した津波の高さを表示</li> </ul>	

# 10. サイン計画について

## サインの主な配置(案)

- ①案内サイン:プロムナード全体を記した案内サインは、来訪者の交通の拠点となる石巻駅や、各拠点の要所に設置する。
- ②誘導サイン:プロムナードやその周辺道路の分岐点となる箇所に設置する。
- ③説明サイン:石巻の歴史や文化等を伝える各施設に対し説明サインを設置する。

ルート・拠点	番号	説明サインの例
拠点B	①	北上川河口と海難救助の歴史
	②	港の歴史
ルート②	③	北上川河口と海難救助の歴史
	④	門脇町の歴史
ルート③	⑤	一皇子宮
	⑥	慈恩院
拠点D	⑦	箱崎八幡神社
	⑧	北上川や中瀬での造船の歴史
拠点C	⑨	大嶋(住吉)神社、住吉公園
	⑩	船着場の歴史
ルート④	⑪	立町・羽黒町等の歴史
	⑫	住吉町、千石町の史跡
ルート⑥	⑬	昔の水遊風景
	⑭	石巻専修大学の桜

※説明サインは、将来にわたって更新・充実を継続

### 【凡例】

- プロムナードルート ①～⑥
- 拠点 B～H
- 案内サイン
- ➡ 誘導サイン
- ⌒ 説明サイン ①～⑭



※拠点B:旧計画の拠点A、B、Eを統合



# 10. サイン計画について

## 【プロムナード計画の利活用の推進に向けた提案】

### ●サインプロジェクト（仮称）

サインプロジェクト（仮称）は、市民、行政、学識経験者など「いのまき水と緑のプロムナード計画」に係る人たちの連携と協働により、サインの検討から設置を行う。また、設置後のサインの更新や充実を図る活動を継続的に行うことを想定する、市民参加型のプロジェクトとする。

▼サインプロジェクト（仮称）の連携・協働イメージ



### ●サインプロジェクトの活動方針（案）

サインプロジェクトは、以下の3つの方針で活動する。

**方針①** 石巻の歴史や文化・産業を、観光客等の外来者に分かりやすく説明するとともに、市民にとっても、学習しながら古き良き石巻の姿に思いを馳せることのできるサインの検討を行う。

**方針②** 活動を通じて、石巻の歴史・文化の伝承の担い手を育成する。

**方針③** 参加者が楽しみながら活動し、将来にわたって継続する。

## 活動内容（案）

### ①ワークショップ等によるサインの検討

・ワークショップ等を開催し、石巻の歴史、文化、産業等の解説や、個々の施設の説明等を市民との協働により検討する。



▲ワークショップの事例写真

### ②市民によるサイン検討と設置

・サインの配設置や製作、設置など、実施に向けた検討を行う。  
・例えば、製作から設置までを市民自らが実施するなどにも考えられる。



▲説明看板のイメージ  
市民視点でわかりやすく、深みのある説明文を作成

### ③プロムナードマップの作成

・市街地の観光施設や魅力あるポイント、トイレ、食事処、バス停留所、回遊する散策路などを分かりやすく記したマップを作成する。



▲フットパスのイメージ（最上川朝日）

### ④プロジェクトのフォローアップ

・分かりやすさや見やすさ等について、来訪者のヒアリングやアンケート等を実施しながら検証し、継続的にサインの内容更新や設置箇所追加、充実を図っていく。



▲イベント風景の事例写真（遠賀川）

# 11. プロムナード計画の避難の考え方

## 各拠点、ルートの特徴

- ・プロムナード計画の各拠点、ルートは、海に近い沿岸、河川沿いであることから、プロムナード計画での避難は、主として津波を考慮する。
- ・プロムナード計画の各拠点、ルートから避難することを想定した場合の現状は図のとおりである。

【ルート④・⑥・拠点F】  
 ・右岸側は、小学校やマンション等があるが、場所によって距離がある。  
 ・橋を渡って対岸の山まで逃げようとする時間がかかる。  
 ・左岸側は、近くに高いところがない。最寄りの山まで逃げようとする時間がかかる。

【ルート⑤・拠点G・拠点H】  
 ・運河沿いにマンションや事務所、学校等の高い建物があるが、場所によって距離があり、スムーズに移動できる避難路も少ない。

【ルート⑥】  
 ・ルート⑥の下流は、館山・牧山が近い。

【拠点C・拠点D】  
 ・拠点Cは、日和山や高い建物等に比較的近い。  
 ・中瀬は近くに日和山、館山・牧山があるが、橋を渡る必要があり、場所によっては距離も遠い。

【ルート②】  
 ・内海付近から下流側は、日和山に近い。  
 ・内海橋より上流側は、近くに大嶋神社の裏山や住吉小学校等の高い所がある。

【ルート①・拠点B】  
 ・海岸沿いは、近くに高い場所がない。  
 ・拠点Bは広大な平地であり、場所によっては日和山への避難に時間を要する。

【ルート③】  
 ・近くに館山・牧山があるが、場所によっては館山・牧山までの避難に相当時間を要する。





# 11. プロムナード計画の避難の考え方

## 避難の考え方と課題

- ・各拠点・ルートともに、基本的には近くの山や、高い建物、または内陸側に向けて避難することが必要であり、誘導のサイン等も検討していく。
- ・近くに避難できる山や建物がなく、時間がかかる場合には、避難ビル等の、新たな避難施設を確保することが今後の課題となる。

### 【ルート④・⑥・拠点F】

- ・左岸側は近くの山や学校への避難が、右岸側は近くの建物等への避難が想定されるが、場所によって避難に時間がかかるため、避難施設等の避難場所の確保や的確な誘導が課題。

近くの山や学校へ

凡 例



避難方向

### 【ルート⑤・拠点G・H】

- ・場所によって避難に時間がかかるため、避難施設等の避難場所の確保や、的確な誘導が課題。

### ※山への避難路

- ・山への避難路は、急勾配で幅が狭い箇所もあり、高齢者等への配慮が課題。

### 【ルート①・拠点B】

- ・日和山に最短で避難できる避難路の確保や的確な誘導が課題。
- ・場所により、日和山までの避難に時間を要することから、折念公園内での高台や避難施設等の確保も必要。

### 【ルート③】

- ・場所により館山・牧山まで相当の時間を要するため、高台や避難場所の確保、的確な誘導が課題。

### 【拠点C・拠点D】

- ・拠点Cは日和山に最短で避難できる避難路の整備が課題。
- ・拠点Dは、中瀬下流側等、場所によって避難に時間がかかるため、避難路の整備や、避難施設の確保、的確な誘導が課題。

### 【ルート②】

- ・近くの建物や日和山への避難が想定されるが、場所によって避難に時間がかかるため、避難路の整備や、避難施設の確保、的確な誘導が課題。



# 12. 具体化に向けた取り組みの提案

## プロムナードの利活用の促進に向けた取り組み(案)

### ～体制・基盤づくり～

#### 産、学、官、民が連携したプロムナード利活用促進体制の確立

プロムナード利活用促進協議会(仮称)を設立するなど、産、学、官、民が連携できる体制を確立し、利活用促進に向けた様々な取り組みを実施していく。



▲協議会風景イメージ  
第1回プロムナード計画懇談会(平成22年5月開催)

#### サインプロジェクト(仮称)

サインプロジェクト(仮称)は、市民、行政、学識経験者など「いのまき水と緑のプロムナード計画」に係る人たちの連携と協働により、サインの検討から設置を行う。また、設置後のサインの更新や充実を図る活動を将来にわたり継続的に行う、市民参加型のプロジェクトとする。



▲ワークショップのイメージ

#### イベント施設やオープンカフェの設置

平成23年度の河川敷地の占用に関する規制緩和を活用し、民間事業者による河川敷地でのイベント施設やオープンカフェを設置し、水辺空間の賑わいを創出する。



▲広島京橋川の事例写真

### ～歴史・文化の学習と観光振興～

#### プロムナードツアーの企画

プロムナードの各拠点やルートの特徴を活かしたツアーをNPOやボランティア、大学などとの連携により企画、ツアーの実施を重ねることにより、より市民や観光客に満足いただけるものにレベルを高めていく。また水辺や川と親しむ各種イベントを開催し、来訪者の増大を図る。



▲イベント事例写真(海軍公園でのイベント風景)



▲観光ツアーイメージ  
(北上川石巻湊公開講座による歴史探訪)

#### 石巻の歴史・文化を学ぶ舟運の復活

昔の石巻港の歴史・文化を感じながら、来訪者の回遊、移動の足となる舟運を復活させる。



▲水上交通のイメージ

#### 観光ガイド等の育成

石巻の歴史文化に詳しい石巻マスターを発掘し、ボランティアガイド等の育成を長期的な事業として行う。



▲第8回北上川石巻湊古公開講座にて、船魂神社を探訪

#### 観光パンフレット、マップの発行

来訪者へのPRとプロムナード利活用の利便性向上を図るため、プロムナードを紹介した観光パンフレット、マップを発行する。



▲フットパスのイメージ(最上川 長井)

### ～利便性の向上・教育～

#### ITの活用による情報提供

インターネットホームページを立ち上げ、各種情報発信を行うとともに、モバイル向けの情報提供を行う。



携帯でアクセス  
携帯電話で読み込めるQRコードを施設に設置

さらに、各施設に携帯電話で読み込めるQRコードを配置し、携帯電話からアクセスしたり、スマートフォン用のマップに各種情報を盛り込み、史跡や各種施設の詳しい紹介やガイドを行うことで、プロムナード散策の楽しみの向上や施設利用の推進を図る。

#### バリアフリー・レンタサイクル導入による利便性の向上

プロムナード計画に基づき整備するところにおいて、誰でも使いやすいバリアフリー化を図る。また、レンタサイクルを導入し、プロムナードのサイクリング利用を推進する。



▲水辺のバリアフリーのイメージ



▲サイクリングでの水辺散策

#### 河川環境及び防災学習の推進

小中学校と行政、市民が連携して、石巻の特性を活かした教材による環境教育や防災教育を推進する。



▲水生生物調査風景



# 参考資料

(参考1) 関連計画の概要





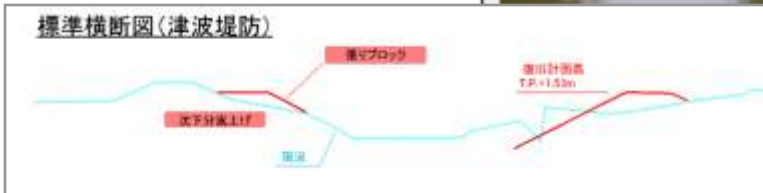
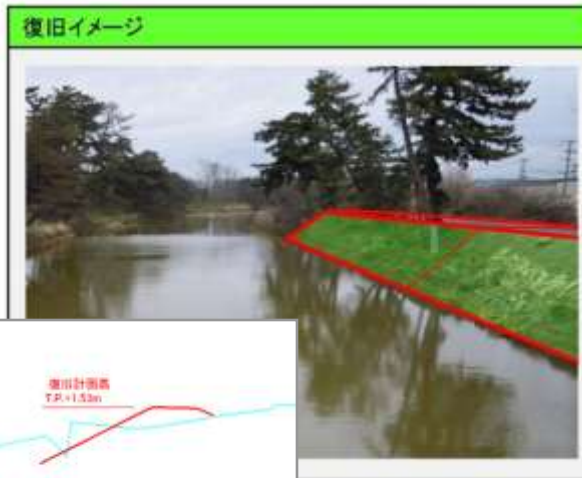
## 北北上運河の堤防復旧（宮城県）

北北上運河の復旧方法の具体的な位置や高さ、完成イメージは以下の通りである。

※現在、詳細設計を進めている段階であり、今後変更になる可能性がある。

宮城県土木部河川課

<http://www.pref.miyagi.jp/kasen/>



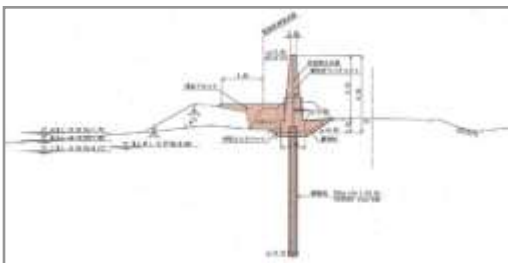
## 海岸施設復旧計画（東浜防潮堤）（宮城県）

雲雀野海岸の現在の海岸保全施設復旧の位置、方法、完成イメージ図は以下の通りである。

※現在、詳細設計を進めている段階であり、今後変更になる可能性がある。

宮城県土木部港湾課

<http://www.pref.miyagi.jp/kouwan/>



## 石巻市震災復興基本計画（石巻市）

### ■ 策定の趣旨

「石巻市震災復興基本計画」は、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震とその後に到来した巨大津波によって、甚大な被害を受けた本市が将来的な復旧、復興を実現していくための道標とするものである。

### ■ 基本理念

#### 1. 災害に強いまちづくり

多くの市民が被災し、電気、水道などのライフラインの寸断を引き起こした今回の震災の教訓を踏まえ、単なる「復旧」ととどまらず、防災基準・防災体制を抜本的に見直し、市民の命を守る災害に強いまちづくりを念頭に、新たな視点で都市デザインを描いたまちを構築するとともに、ライフラインの補完や快適な生活空間として新エネルギーを活かしたまちづくりを目指す。

#### 2. 産業・経済の再生

基幹産業である紙・パルプ製造業、飼肥料製造業、合板製造業及び食を支える重要産業である農林水産業などが壊滅的な被害を受けた中、今後の産業の連携・融合も含めた在り方を検討し、復旧・復興を促進するとともに、地域資源を活かした産業振興基盤づくりを図る。

#### 3. 絆と協働の共鳴社会づくり

人と人との結びつき・「絆」を大切にするとともに、市、地域、企業、大学、NPOなどが総力を結集し、新たなまちづくりに向かって「共鳴」しながら、豊かで支えあう地域社会の構築を図る。

### ■ 計画期間

復興にあたっては、復旧期や再生期、発展期を経た概ね10年間とし、平成32年度を復興の目標に定める。

石巻市 [http://www.city.ishinomaki.lg.jp/reconst/re\\_const\\_4\\_2\\_2\\_3.jsp](http://www.city.ishinomaki.lg.jp/reconst/re_const_4_2_2_3.jsp)

### ■ 市街地の土地利用

#### (1) 津波への対応

- 数十年から百数十年に1回程度発生【レベル1】⇒「防御」(海岸堤防、河川堤防)
- 最大級の津波(今回)【レベル2】⇒「減勢・減災」・・・完全防御は困難  
(高盛土道路、防潮林、避難路、避難ビルの整備)

#### (2) 中心市街地エリア

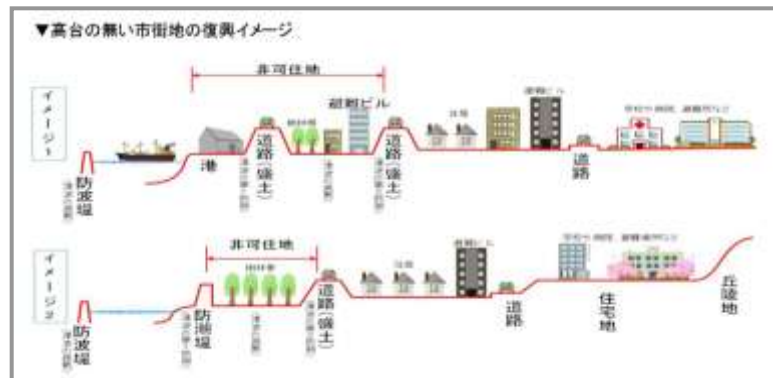
- 河川堤防と一体のまちづくり ⇒市街地再開発等、商業、居住など多様な都市機能の集積

#### (3) 海岸堤防と高盛土道路に囲まれたエリア

- 原則非可住地(住めない) ⇒公園、産業ゾーンとして整備

#### (4) 高盛土道路から内陸部エリア

- 可住地(住める) ⇒土地区画整理事業、防災集団移転促進事業により良好な住環境を整備



震災復興基本計画「土地利用構想図」